



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 175

2017年2月24日発行

九州支部長

寒さ厳しき中にも少しずつ日も長くなり始め、春の訪れを身近に感じるようになりました。今年にはインフルエンザが猛威をふるい、学級閉鎖などのニュースをよく耳にします。会員の皆さま方は、お元気でお過ごしでしょうか？1月に入って我が家の庭にもめじろやひよどりが枝々にさした輪切りのミカンをついばみに、日に何度もやってきます。そして木々が緑に覆われる頃になるとぴたりとやって来なくなります。それまでの間、可愛い光景を楽しませてもらっています。今年初めての会報です。ご挨拶遅くなりましたが、今年もどうぞよろしくお祈りします。

サーバス九州支部会報 175号(2017年2月号)をお届けします。掲載している内容は以下の通りです。

1. サーバス九州支部会議のお知らせ
2. SYLE について
3. サーバス旅行レポート
4. シリーズ 世界一周の旅
5. サーバス九州会員情報
6. サーバス九州からのお知らせとお願い
7. サーバス九州連絡先(常掲)

1. サーバス九州支部会議のお知らせ

毎年恒例の支部会議を以下の要領で開催しますので、多くの会員の御参加をお願い致します。

1) 支部会議

期 日： 2017年4月1日(土) 14:00~16:00 (受付開始 13:30~)

会 場： 福岡市健康づくりセンター「あいれふ」8F 視聴覚室

住所：〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-5-1 TEL 092-751-2827

地下鉄で天神の次の赤坂で下車(博多-祇園-中洲川端-天神-赤坂)。

議 題： 2016年度支部活動報告、2016年度決算、2017年度活動計画、
2017年度予算、その他

支部会議終了後、懇親会を開きます。

2) 懇親会

時間： 17:00~19:00

場所： 居酒屋「いろり」 博多座地下2階

会費： 4,000 円（飲み放題付き）

是非ご参加ください。お互い近況報告やサーバス体験を語り合い楽しいひと時を過ごしましょう。

3) 参加申し込み

締め切り： 2017 年 3 月 20 日

申し込み先： 支部長宛にメールでお願いします。

なお、支部会議場の「あいれふ」には駐車場がありませんので、近くの有料駐車場をご利用ください。

2. SYLE について

SYLE とは日本サーバスの本部会報（2017 年 2 月 7 日発行 Web ページに掲載）の中に述べられていますが Servas Youth Language Experience の頭文字をとったものです。

国際サーバスのホームページにも内容が紹介されていますので、そちらもご覧ください。18～30 歳ぐらいのサーバス会員を対象にしたもので、研修を希望する国のサーバスホスト宅に 1 ヶ月程度滞在し、語学や文化を学ぶプログラムです。

昨年の 10 月に US Servas から SYLE の受け入れ依頼が日本サーバスに届きました。応募者は 28 歳の女性で、アメリカの大学で日本語を学び、京都に 1 年間の留学経験をお持ちの方です。色々検討した結果今回日本サーバス初めての経験として、九州支部が受け入れを担当する事になりました。日本語指導経験のある N. M. 顧問をホストリーダーとして、福岡、佐賀、長崎のホスト宅を 5～7 日ぐらいで移動する予定です。SYLE には 30～80 歳を対象とした Servas Language Volunteer Experience というプログラムもありますので関心のある方は、ぜひ国際サーバスのホームページをご覧ください。

3. サーバス旅行レポート

北欧・ドイツ・フランス旅行記

宮崎 H. T. 会員

2016 年 9 月 21 日から 10 月 11 日までホテル宿泊とサーバスステイをしながらフィンランド、エストニア、スウェーデン、ドイツ、フランスを一人で旅行して来ました。今回の旅の主な目的は、3 年前ストックホルムから私の家にステイした友人を訪ねながら、私の長きに渡る願望であったスカンジナビア半島を旅すること、それと我が家にステイした会員などとの再会でした。

旅行行程は 9 月 21 日～9 月 23 日はヘルシンキ泊、24 日～27 日はストックホルム泊、28 日はマルメ（スウェーデン）泊、29 日はリュベック（ドイツ）泊、9 月 30 日～10 月 2 日はパリ郊外（友人宅）泊、3 日～5 日はサンティチェヌ（フランス）泊、6 日はリヨン泊、7 日 9 日は再びパリ郊外の友人宅泊、10 日にパリ発で日本時間 11 日に羽田着の 3 週間の日程でした。

(1) ヘルシンキ ～ 美しい北欧の街並み、優しい人たち、エストニアにも足伸ばす

関西空港から FIN AIR でヘルシンキに**9月21日** 14時45分到着。空港から FIN AIR 市バスでストックホルム中央駅に向かい、17時前にホテルにチェックイン。荷物を解いて観光案内所に行き CITY MAP を手に入れて、駅近くのスーパーで食事を済ませた後は少々疲れていたのでシャワーも取らずに就寝。

22日～町中にある落ち着いた雰囲気のエスプラナーディ公園を通り抜けて港湾に面したマーケット広場に行きました。色とりどりの果物、野菜、魚や様々な工芸品などがあり大変興味深かったです。フレンドリーな若い女性店員や画家の女性などと会話を楽しみながら歩き回りました。私は外国でのこうした市場を見るのが大好きで、見かけたら必ず立ち寄ります。何かを買うという訳でもないのですが、ふとした会話から話題が発展し、地元の人たちの優しさに触れ、想いを伺い知ることでもできるからです。

この後、ウスペンスキー寺院に行き荘厳なテンペラ画やシャンデリアを見学、小高い丘にあるこの寺院からはヘルシンキの美しい町並みを展望することができました。次に訪れたヘルシンキ大聖堂は雄大な建造物で1830年から1852年にかけて建築されたもので、年間40万人の観光客があるそうです。

時間に余裕があるので作曲家を記念したシベリウス公園に行くことにしました。目的地への入り込む道を間違えて、考えていたよりも時間がかかってしまいました。途中、地図と建物のストリート表示を見比べて確認していると、犬と散歩中の60歳代とおぼしき男性と通行中の別の30歳代の青年からどこに行こうとしているのかと声をかけられました。青年から「シベリウスを好きなのか？」聞かれたので作品はあまり知らないが、有名な作曲家なので名前だけは知っていると言うと「フィンランディアは彼の作曲だ」と教えてくれました。歩きながらの短い会話でしたが、心が和んだ瞬間でした。親切な2人の男性に私のフィンランド人の優しさを感じました。

23日～エストニアのタリンに日帰りで訪れました。フェリーで片道2時間半、現地滞在4時間の日程でしたが、小さな町ですので十分観光することができました。フェリー代金は往復25ユーロで乗船時間からすると、思っていたより格安感がありました。フェリーターミナルには大勢の客がいますが(1000人前後?)、周りを見ても日本人はどうやら私一人のようです。船内のレストランで昼食をとるのにクレジットカードで支払いサインしていると、レジの女性から「あなたは日本人か?私の名前を日本語で書いて欲しい」と紙片を渡されました。カタカナ、ひらがなそれに漢字で書いて渡すと大変喜んでくれました。タリンは中世の面影を残した落ち着いた街並みの美しい町でした。町の中心にある広場で、私は伝統衣装に身を包んだ男性と女性に話しかけました。その男性は「エストニアはロシア、デンマーク、スウェーデンに幾度も統治されてきた歴史があるが、その中でデンマークは貧乏だったエストニアを大切にしてくれたので今の国家がある。従ってエストニア国旗にはデンマーク国旗の一部(十字)がある」と話してくれました。短時間の会話でしたが、大変興味深い話でした。

(2) ストックホルム ～ 楽しかったウクライナ人との交流

24日～家族へ葉書を投函するためにヘルシンキ郵便局に行き、開業を待っていると中年の男性が「あと5分、10時開業だよ」と声を掛けてくれました。3年前名古屋に行った時に友達になったホテル受付の女性に誕生日プレゼントを送りに来たとのこと。私の旅のことなどを話している内に開業、彼が私の受付順番カードを取って助けてくれました。一人旅の中でのほっとしたひと時でした。14時10分発ストックホルム行きの飛行機に搭乗。すると隣の席に若い日本人女性が座っています。会社の同僚二人と共に初めてのヨーロッパ出張だそうで、お互い旅の印象

などを話しました。この女性とは、私がストックホルム中央駅の混雑したプラットホームでメトロを待っていたら、彼女から「またお会いしましたね、奇遇ですね」と突然、偶然声を掛けられ、びっくりしました。ストックホルムの人口が約70万人、観光客を含めると数10万分の1の確率に本当に驚きました。

ストックホルム空港には、Tさんが待っていてくれました。彼女はストックホルムサーバス会員のMの友達で3年前2人一緒に我が家にステイしました。Mの家が改修中なので、Tさん宅にお邪魔することになったのです。彼女の家は中央駅からメトロで約30分、郊外の静かな住宅地です。簡単な夕食を済ませて湖畔に沿って小道を散策、美しい風景が続きます。途中にはテレビでしか見たことのない雪の季節に使うサウナハウスと飛び込みポイントがあり、実物を実感することができました。

Tさんは日本の演歌が大好きで、たくさんの古い歌をパソコンにコレクションしており、私と一緒に歌いました。既に死亡した歌手が何人もいることを言うとびっくりしていました。

25日～ガムラ・スタンの主な観光スポットを歩き回った後、いわゆる民俗村のスカンセンを観光しました。そこは広大な観光園で、終日滞在しました。昔の農家、家畜小屋、伝統衣装に身を包んだ美しい女性など多彩な内容でした。伝統民族ダンスも催されており、男女が腕を組み合い、お互いの目を見つめ合い、背中に手を回しながら軽いステップを踏みながら踊る様子に飽きずに、すっかり見とれてしまいました。妻のことを思い浮かべながら・・・。

Tさんはアパートの部屋の一部を2人のウクライナ人男性に貸しているのですが、その日男性が釣ってきた魚を塩焼きにして私にも食べさせてくれました。美味しかったとお礼を言ったら、それがきっかけとなりお互いの家族の写真、仕事、年齢のことなどに話が及びました。その内にウオッカを勧められ、ショットグラスで3～4杯飲んだら私は次第に酔ってしまいました。話に一層エンジンがかかり、楽しいひと時でした。



26日、27日～26日はノーベル賞授賞式が行われる市庁舎やダウンタウンを歩き回った後、早めに帰宅。酒専門店に行って、昨日の魚のお礼に10本のビール缶を買って帰宅しました。皆で飲みながら騒ぎました。27日は300年もの間、海底に沈んでいた船が保存してあるバーサ号博物館を見学、引き上げられた後も、しっかりとほぼ完璧なほどに原形を留めている姿が驚きでした。夜はまた4人でビールパーティです。ウクライナの賃金、年金、病院での治療費のことが話題になりました。ソビエト連邦崩壊の前と後の比較について尋ねると、ウクライナ人の2人は分離前の方が良かったと言っていました。

次回に続く

4. シリーズ 世界一周の旅

トルコ、クシャダスからギリシャ、サモス島へ移動（2012年5月21日～22日）

熊本 T. A. 会員

トルコのクシャダスから船でサモス島へ移動。サモス島はクシャダスから船で1時間半ほどだ

がギリシャ領である。船の看板でのんびりしていた私達は、なぜか出国したことに気付かず、サモス到着20分前に、ギリシャ領と気付き急いで残りのトルコリラを売店で消費したのであった。

サモス島に着くと大きなギリシャの旗と、看板のΩやΣなどの文字に迎えられ、本当にギリシャなのだと思得した。風景もトルコと変わって、丘には白壁にオレンジ屋根の家々が並んでいたりと、教会が見えたり、海岸沿いにオープンテラスのレストランが並んでいて明るい地中海のイメージだった。

本日の宿は友人がネットで見つけた「ピタゴラスホテル」という港から徒歩5分のホテル。ツイン、朝食付きで35ユーロ。2階の狭いバルコニー付きの部屋だった。荷物を置いた後は、街の銀行でトラベラーチェックを現金に交換。その後は海岸沿いのレストランで久々にシーフードとギリシャ風サラダを食べた。

食事中、私たちの横に7人くらいの男の団体がいて食事しながらお酒を飲んでいて、町行く人に声をかけているので地元の人と思うが、随分とのんびり食事をしているなあと思っていると、帰り道の薬局の扉に、休み時間14:30~18:00とあった。つまりここはシエスタがある街なのだった。ホテルに帰って聞いたら、彼らは3時間半の休憩の間に食事をしてお酒を飲んで、その後仮眠を取るとのことだった。日本にはない制度なのでなんだか不思議だが、ココも暑い国なので昼間は働かないのかもしれない。

昼食後、ホテルの部屋でしばらく横になって起きたら夕方になっていた。外は雨が降っていたので食事はホテルのテラスで、船内で買ったビールと菓子で済ませることにする。(私たちの旅は基本質素なので、レストランでの食事は1日1回くらい後は、スーパーで買い求めたもので済ませていた)しかし、あまりに粗末な食事をみかねたのか、ホテルのお姉さんが手作りのケーキを差し入れしてくれた。いい人である。

翌日は8:00頃に目覚める。外はやや曇っている様子。洗濯をし、ラジオ体操などした後、下のレストランで朝食をとる。内容はパン、ゆで卵、大量の紅茶。はじめ朝食の内容が少ないかなと思っていたけど、大量の紅茶でお腹いっぱいになった。一度部屋に戻って荷物整理したあと、チェックアウトまで2時間くらいあったので近くの浜に泳ぎに出かけた。

サモスの海岸は砂浜ではなく、小石がごろごろ転がる浜だったが、水は透き通っていて綺麗だった。綺麗な海で泳ぐのは気持ちがいい。一人でのんびり泳いでいると、ギリシャ人のおばあちゃん2人組がやってきて泳ぎだした。2人ともおそらく70歳はこえていると思うがビキニ姿。しかも浜で生着替えだった。二人は少し遠くの岸の方まで泳いでから戻ってくるとまた着替えて帰っていった。

はじめ、この海にはウニがいたので海女さんかと思ったが、ただ単に泳ぎにきただけのようだった。少し話しをしたら近くに住んでいるそうで、時々泳ぎに来るそうだ。日本だと年と取るとあまり海で泳いだりしないが、こうやって年取ってもビキニを着て泳いでいるのを見ると年齢に関係なく何でも自由にできるように思った。

サモス滞在は一泊のみ。ホテルチェックアウト後は荷物を預かってもらい、船の出発の夕方まで街を少し歩いてみる。レストランで聞くと、ここがサモス島の中心部で山手に古い建物、また町の東の方にワイナリーがあると教えてくれた。ワイナリーは遠そうだったので、山手の方を登って古い家を見ることにした。暫く登っていくとかわいらしい出窓のある家が出てきた。プランターで植物を育てている家が多く、気に入った家を写真に撮って歩いた。レモンやオレンジが植えてある家や、綺麗なブーゲンビリアやバラの花が咲いている家もあった。日本の家とはぜんぜん違うスタイルであるが、こんな白壁にオレンジ屋根、窓辺に鮮やかな花が咲く家もいいなと思った。

サモスを出発する今回の船はサモスに来たときよりも大きな船。車の乗せられるフェリーだっ

た。夜間の移動のため私たちはキャビンを予約した。キャビンは6畳くらいの部屋にベッドが2つ。トイレとシャワーつきだ。キャビンに泊まらない人は売店の近くにあるソファや廊下の隅など、各自思い思いの場所を確保し寝袋を敷いて寝るようだ。3,000円くらい高いが私たちはキャビンを選んでよかった。いよいよ翌日はアテネ到着。

5. サーバス九州会員情報

○ 新入会員紹介

2017年2月入会 S.K.さん 鹿児島県薩摩川内市在住

- 九州支部会員数：48家族（福岡 12名、佐賀 5名、長崎 9名 熊本 3名
大分 11名、宮崎 6名、鹿児島 2名）

6. サーバス九州からのお知らせとお願い

○ レポート

サーバス旅行をしたり、トラベラーを受け入れた場合はその時の様子をぜひレポートにしてお送りくださるようお願いいたします。次回会報に掲載させていただきます。

○ 2017年度の会費納入のお知らせ

年会費3,000円の納入をお願いします。1月末までにお支払い頂く事になっていますが、まだお済みでない方はお支払いいただくようお願いいたします。

郵便口座をお持ちでしたら振り込み手数料無しで送金できます。口座番号は会報の末尾に常掲しています。ご利用ください。

2016年度をまだ納めてない方は会計から納入お願いの手紙が届いたと思います。お支払いしていただくようお願いいたします。

○ 日本サーバス国内会議案内

日時 2017年3月18日（土）～19日（日）

場所 仙台市

参加希望の方は支部長までお知らせください。

○ リーフレット

サーバスを宣伝するためのリーフレットを作りました。A4、1枚で裏表に分かり易くサーバスの事を説明しています。ご入り用の方は友野まで申し込みください。

4月1日の支部会議の時に参加者には配布致します。

7. サーバス九州連絡先（常掲）

発行日： 2017年2月24日（175号）

発行者：サーバス九州支部長

【会費、認定料等の送金は以下にお願いします】

- 郵便口座をお持ちでしたらその口座からサーバス九州事務局の郵便口座へは送金手数料無料で振り込みできます。
記号：17240 番号：17160361
名称：サーバス九州事務局
- 銀行から振り込む場合 送金手数料は有料です。
店名：七二八（ナナニハチ）
店番：728 種類：普通
番号：1716036（有料）（これには末尾1不要）